



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年1月30日

上場会社名 株式会社 デサント
 コード番号 8114 URL <http://www.descente.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石本 雅敏
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役スタッフ管掌 (氏名) 辻本 謙一
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月6日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 06-6774-0362

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	75,931	17.0	3,591	3.6	3,863	5.7	2,739	14.7
25年3月期第3四半期	64,915	7.1	3,466	△0.4	3,654	3.2	2,387	2.5

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 4,553百万円 (73.7%) 25年3月期第3四半期 2,621百万円 (66.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	36.36	—
25年3月期第3四半期	31.69	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	82,214	52,922	64.4
25年3月期	75,237	48,974	65.1

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 52,922百万円 25年3月期 48,974百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	8.00	8.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	104,000	13.1	6,000	10.7	6,100	8.2	4,000	12.3	53.09

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	76,924,176 株	25年3月期	76,924,176 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	1,579,210 株	25年3月期	1,574,138 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	75,347,284 株	25年3月期3Q	75,352,828 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
四半期連結包括利益計算書	9
(3) 継続企業の前提に関する注記	10
(4) セグメント情報	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
4. 補足情報	11
(1) 販売実績	11
(2) 海外売上高	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、米国は雇用情勢が好転するなど、引き続き好調を維持しており、低迷していた欧州は失業率の過去最悪水準が続いているものの、消費は英独仏を中心に底打ちの兆しがみられ景況感は改善しています。アジアでは、中国は公費節約の奨励など消費意欲を冷え込ませる要因は依然解消されていないものの、投資が景気の持ち直しを牽引しています。韓国も引き続き民間需要が景気を牽引しています。一方、ASEAN地域での景気回復は鈍化傾向にあります。

日本経済は、各種政策の効果が発現するなかで、個人消費を中心に回復基調を維持し、雇用情勢の改善や設備投資の回復の動きも見られ、全般的には緩やかな回復傾向にあります。

当スポーツ業界においては、間近に迫った「第22回冬季オリンピック競技大会(2014/ソチ)」、「FIFA ワールドカップ20回記念大会(2014/ブラジル)」の開催や、東京開催が決定した2020年のオリンピック・パラリンピックなど、引き続きスポーツへの注目は高まっておりますが、4月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要とその後の反動による落ち込み懸念など先行き不透明な状況が続いています。

このような状況の中、当社グループは5月に発表した当期を初年度とする中期3ヵ年計画「Compass 2015」の達成に向けて、各種政策を推し進めてまいります。

商品政策では、「アンブロ」ブランドで、韓国における商標権を新たに獲得いたしました。2015年よりデサント코리아株式会社を通じて、韓国における「アンブロ」の展開を開始いたします。国内外でブランド横断的には、戦略素材である太陽光遮蔽素材「サンスクリーン」、蓄熱保温素材「ヒートナビ」を使用した商品を、引き続き展開してまいりました。その他にも、各ブランドで使用シーンに応じた機能性のある商品を開発し、順次展開しています。また新たな取り組みとして、12月よりフィギュアスケートの浅田真央選手がプロデュースする「MaoMao」ブランドと「アリーナ」との取り組みによりフィットネスウェア「MaoMao by arena」の販売を開始いたしました。

販売活動では、新規店オープンや他社との協業の推進により、リテール事業強化を推進してまいりました。国内において、10月10日にオープンしたコーポレートブランド「デサント」のフラッグシップショップ「DESCENTE SHOP TOKYO (デサント ショップ 東京)」では、物販のみならず、著名人によるトークイベントを始めとする様々なイベントを定期的に開催し、ブランド認知及びイメージの向上を図りました。また、「アンブロ」では、ブランドの世界観や機能性をベースにしたライフスタイルウェアを展開するコンセプトショップ、「UMBRO Locker Room (アンブロ ロッカールーム)」の展開を開始いたしました。その他にも各業態でショップインショップの展開も進めています。海外においては、韓国では、「デサント」の展開店舗を164店に拡大し、その他ブランドでも百貨店やショッピングモールへ積極的に出店いたしました。その他の国でも引き続き展開店舗拡大を進めています。

広告宣伝・販売促進活動では、国内においては、「第22回オリンピック冬季競技大会(2014/ソチ)」において、日本代表選手団が使用するオフィシャルスポーツウェア8アイテムの提供をいたします。そのうち4アイテムのレプリカモデルの販売を12月下旬より順次開始いたしました。さらに、一般社団法人日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟が派遣するボブスレーナショナルチームに、競技用ウェア(レーシングスーツ)もサプライいたします。野球では、「デサント」でオフィシャルスポンサー契約を締結していた「東北楽天ゴールデンイーグルス」が、日本シリーズを制し、初の日本チャンピオンとなりました。ゴルフでは、「ルコックスポルティフ(ゴルフ)」契約の横峯さくらプロが101試合連続予選通過の日本女子ツアー記録を樹立し、9月恒例の「第44回マンシングウェアレディーズ東海クラシック」での優勝をはじめ年間4勝を挙げ、LPGA最優秀選手賞を受賞しました。海外においては、ゴルフではデサント코리아株式会社契約で「マンシングウェア」着用の裨相文(ベ・サンムン)プロが、5月のアメリカPGAツアーでの優勝に続き韓国PGAツアーでも優勝するなど、国内と同様に契約選手の活躍、イベントや大会への協賛等を通じて各国で展開ブランドのイメージ向上に努めました。

社会貢献活動では、2020年のオリンピック・パラリンピック招致を目指し、「特定非営利活動法人東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会」のオフィシャルパートナーとして協賛し、招致活動をサポートしてまいりました。また、スポーツ振興事業推進においては、8年目を迎えた「すこやかキッズスポーツ塾」を、小学生を対象にして11月に福島県郡山市で開催いたしました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は75,931百万円(前年同四半期比17.0%増)、営業利益は3,591百万円(前年同四半期比3.6%増)、経常利益は3,863百万円(前年同四半期比5.7%増)、四半期純利益は2,739百万円(前年同四半期比14.7%増)となりました。

報告セグメントの業績は次のとおりであります。

(日本)

「クレージュスポーツフューチャー」および「スポーツスタディオウィットテム」の販売中止による売上減がありましたが、他ブランドによる底上げもあり前年並みとなりました。しかしながら、流通在庫への消化促進策の実施、仕入コスト増や一般経費増が利益を押し下げた結果、売上高は42,305百万円(前年同四半期比0.4%減)、セグメント利益は、213百万円(前年同四半期比85.6%減)となりました。

(アジア)

韓国では事業全般にわたり好調に推移し大幅な増収となり、香港および中国も同様に好調に推移し、また為替変動は業績に好影響をもたらしました。結果、売上高は32,813百万円(前年同四半期比51.3%増)、セグメント利益は3,345百万円(前年同四半期比76.5%増)となりました。

(北米)

北米ではスキーウェアを中心としたアウトドア事業を行っております。売上高は812百万円(前年同四半期比10.4%増)、セグメント利益は24百万円(前年同四半期比59.9%減)となりました。

取扱商品の品目別売上高の状況は次のとおりであります。

(アスレチックウェア及びその関連商品)

国内市場においては、「ルコックスポルティフ」はレディースのシャツアイテムが販売を牽引して好調に推移し、「アリーナ」は堅調に推移いたしました。「デサント」「アンブロ」は、共に前年並みとなりました。アジア市場においては、韓国において「デサント」のトレーニングや水上スポーツアイテムなどが大幅増収となり、「ルコックスポルティフ」はシャツおよびパンツアイテムが販売を牽引し、好調に推移いたしました。中国において「アリーナ」は、レジャー水着が販売を牽引し、また、インターネットショッピングサイト「天猫(Tmall)」での売上が大幅に伸長したことから、好調に推移いたしました。結果、売上高は43,283百万円(前年同四半期比14.1%増)となりました。

(ゴルフウェア及びその関連商品)

国内市場においては、「ランバン スポール」は高級素材を用いた商品等が引き続き販売を牽引し好調に推移し、「カルバン・クライン ゴルフ」は展開店舗の増加により売上を大幅に伸ばしました。「マンシングウェア」「ルコックスポルティフ」は、共に前年並みとなりました。アジア市場においては、韓国において、「マンシングウェア」は長袖シャツアイテムが販売を牽引し好調に推移いたしました。「ルコックスポルティフ」はレディースアイテムのデザインや新色が好評を博し、好調に推移いたしました。結果、売上高は23,478百万円(前年同四半期比9.3%増)となりました。

(アウトドアウェア及びその関連商品)

国内市場においては、「マーモット」は高機能ダウンアイテムが市場を牽引し、専門店での売上伸長に繋がり好調に推移いたしました。アジア市場においては、韓国において「デサント」がスキーウェア、アウトドアウェア共に売上が大幅に伸長したことから、好調に推移いたしました。北米においては、「デサント」のスキーウェアを中心とした事業を展開しておりますが、当期間においては増収となりました。結果、売上高は9,169百万円(前年同四半期比67.0%増)となりました。

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 連結財政状態に関する説明

(資産、負債、純資産の状況に関する分析)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は82,214百万円となり、前連結会計年度末に比べ6,976百万円増加いたしました。

流動資産は前連結会計年度末に比べ2,609百万円増加し、59,182百万円となりました。これは主に現金及び預金の減少4,683百万円、受取手形及び売掛金の増加1,606百万円、商品及び製品の増加4,077百万円によるものです。

固定資産は前連結会計年度末に比べ4,367百万円増加し、23,031百万円となりました。これは有形固定資産の増加2,298百万円、無形固定資産の増加971百万円、投資その他の資産の増加1,096百万円によるものです。

負債合計は前連結会計年度末に比べ3,028百万円増加し、29,291百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金の増加2,545百万円によるものです。

純資産は前連結会計年度末に比べ3,947百万円増加し、52,922百万円となりました。これは主に利益剰余金の増加2,136百万円、為替換算調整勘定の増加1,535百万円によるものです。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ0.7%減の64.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループを取り巻く環境はさらに厳しい状況で推移するものと見込まれます。

このような状況のなかで、当社グループは引き続き企業体質の強化による収益力向上と企業価値の向上に努めてまいりたいと存じます。

連結業績予想につきましては、概ね当初予想の範囲内で推移しており、現時点においては、平成25年5月9日に公表しました業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

一部の連結子会社について、税金費用は、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、当該連結子会社の法人税等は、法人税、住民税及び事業税に含めて表示しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,536	13,852
受取手形及び売掛金	18,694	20,301
商品及び製品	16,399	20,477
仕掛品	79	165
原材料及び貯蔵品	559	766
その他	2,363	3,686
貸倒引当金	△59	△66
流動資産合計	56,573	59,182
固定資産		
有形固定資産	11,626	13,924
無形固定資産	1,179	2,151
投資その他の資産		
その他	6,020	7,179
貸倒引当金	△162	△224
投資その他の資産合計	5,858	6,955
固定資産合計	18,663	23,031
資産合計	75,237	82,214
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,212	17,758
短期借入金	—	281
1年内返済予定の長期借入金	1,500	1,500
未払法人税等	963	1,015
賞与引当金	788	427
返品調整引当金	303	578
その他	4,390	3,761
流動負債合計	23,159	25,322
固定負債		
退職給付引当金	1,047	1,164
その他	2,054	2,804
固定負債合計	3,102	3,969
負債合計	26,262	29,291

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,846	3,846
資本剰余金	25,184	25,184
利益剰余金	20,576	22,713
自己株式	△661	△665
株主資本合計	48,944	51,078
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	258	600
繰延ヘッジ損益	△45	△109
為替換算調整勘定	△183	1,352
その他の包括利益累計額合計	30	1,844
純資産合計	48,974	52,922
負債純資産合計	75,237	82,214

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	64,915	75,931
売上原価	32,494	36,719
売上総利益	32,420	39,212
返品調整引当金繰入額	363	289
差引売上総利益	32,057	38,923
販売費及び一般管理費	28,591	35,331
営業利益	3,466	3,591
営業外収益		
受取利息	56	42
受取配当金	70	51
受取補償金	38	114
その他	108	111
営業外収益合計	273	319
営業外費用		
支払利息	1	2
固定資産除却損	14	38
為替差損	45	—
その他	23	7
営業外費用合計	85	48
経常利益	3,654	3,863
特別利益		
固定資産売却益	90	—
投資有価証券売却益	27	—
特別利益合計	117	—
特別損失		
投資有価証券評価損	232	—
特別損失合計	232	—
税金等調整前四半期純利益	3,540	3,863
法人税、住民税及び事業税	1,282	1,222
法人税等調整額	△130	△99
法人税等合計	1,152	1,123
少数株主損益調整前四半期純利益	2,387	2,739
四半期純利益	2,387	2,739

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,387	2,739
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	86	341
繰延ヘッジ損益	△70	△63
為替換算調整勘定	217	1,479
持分法適用会社に対する持分相当額	0	56
その他の包括利益合計	233	1,814
四半期包括利益	2,621	4,553
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,621	4,553

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	アジア	北米	計		
売上高						
外部顧客への売上高	42,491	21,688	735	64,915	—	64,915
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,613	103	—	1,717	△1,717	—
計	44,104	21,791	735	66,632	△1,717	64,915
セグメント利益	1,479	1,895	61	3,436	29	3,466

(注) 1 セグメント利益の調整額29百万円には、セグメント間取引消去3百万円、棚卸資産の調整額25百万円を含んでおります。

(注) 2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	アジア	北米	計		
売上高						
外部顧客への売上高	42,305	32,813	812	75,931	—	75,931
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,682	108	0	1,791	△1,791	—
計	43,987	32,922	812	77,723	△1,791	75,931
セグメント利益	213	3,345	24	3,583	8	3,591

(注) 1 セグメント利益の調整額8百万円には、セグメント間取引消去53百万円、棚卸資産の調整額△45百万円を含んでおります。

(注) 2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. 補足情報

(1) 販売実績

(単位：百万円、%)

区分	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
アスレチックウェア 及びその関連商品	37,942	58.4	43,283	57.0	5,340	14.1
ゴルフウェア 及びその関連商品	21,480	33.1	23,478	30.9	1,997	9.3
アウトドアウェア 及びその関連商品	5,491	8.5	9,169	12.1	3,678	67.0
計	64,915	100.0	75,931	100.00	11,016	17.0

(2) 海外売上高

前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

(単位：百万円、%)

	アジア	北米	その他の地域	計
I 海外売上高	22,712	740	685	24,138
II 連結売上高				64,915
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合	35.0	1.1	1.1	37.2

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

①アジア・・・・・・韓国、中国、香港等

②北米・・・・・・米国、カナダ

③その他の地域・・・・ロシア、スイス等

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

(単位：百万円、%)

	アジア	北米	その他の地域	計
I 海外売上高	33,769	815	755	35,340
II 連結売上高				75,931
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合	44.5	1.1	1.0	46.5

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

①アジア・・・・・・韓国、中国、香港等

②北米・・・・・・米国、カナダ

③その他の地域・・・・ロシア、スペイン、スイス等

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。